

琉球大学学術リポジトリ

都市および農村地域の土地利用計画適正化に関する
研究：カブール首都圏域を対象として

メタデータ	言語: en 出版者: 琉球大学 公開日: 2022-09-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Habibi, said Mustafa メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002019532

(様式第5-2号) 課程博士

令和 4年 8月 22日

琉球大学大学院
理工学研究科長 殿

論文審査委員

主査 氏 名 小野尋子

副査 氏 名 清水肇

副査 氏 名 安藤徹哉



学位 (博士) 論文審査及び最終試験の終了報告書

学位 (博士) の申請に対し、学位論文の審査及び最終試験を終了したので、下記のとおり報告します。

記

申請者	専攻名 総合知能工学 氏名 Habibi Said Mustafa 学籍番号 XXXXXXXXXX
指導教員名	小野 尋子
成績評価	学位論文 <input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格 最終試験 <input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格
論文題目	A Study on the Land Use Suitability Assessment for Urban and Rural Development: A Case Study of Kabul Metropolitan Area 都市および農村地域の土地利用計画適正化に関する研究:カブール首都圏域を対象として
審査要旨 (2000字以内)	
<p>本学位論文は、3部構成からなっている。まずアフガニスタンの首都カブール郊外の新市街地開発地域を含む首都圏域全体での開発適地を抽出するために、現在農村部であるエリアで、開発適地となる場所を複数の指標を使って整理している。その後、既に開発されたカブール市内での開発適地を評価するための指標を整理している。整理に当たっては、複数の専門分野の専門家に、環境・文化財・浸水・過去の地震・農業・広域的な立地・水源・斜面等の保全要素と、人口密度・都市施設の充実度・空き地・都市中心からの近接度等の開発要素について、重み付け評価を実施してもらい、それにより、開発に適する市街地の評価を可能とした。</p>	

最後に、カブール市内の実際の市街地を対象に、市街地改善事業、土地区画整理事業、市街地再開発事業のそれぞれによる開発の費用と効果を比較し、現状の非計画市街地をどのように改善することが望ましいか、事業手法の実現可能性について調査をしている。

本学位論文に関する公聴会は、令和4年8月5日(金)15時からリモートで行われた。公聴会には主査・副査の他に、日本で土地区画整理事業を用いてニュータウン開発に当たられた元地域公団職員の技術者やアフガニスタンの関係者も多数出席し、活発な質疑は1時間を超えて行われた。

特に3点目の、市街地開発事業の実現可能性について、税制、土地所有、土地建物登記、不動産評価方式、建設コスト等が全く日本と異なるアフガニスタンで、実現が可能となるように、同国の制度に沿って関係機関とも検討し、また造成工事で伝統的な建材を用いることによりコストの削減を図るなどの工夫を含む、アフガニスタン適用型土地区画整理事業の提案も行っていることは高く評価された。

したがって、本研究成果は工学的に有用であり、提出された学位論文は博士の学位論文に相当するものと判断し学位論文の審査を合格とする。また、論文発表会における発表ならびに質疑応答において、申請者は専門分野および関連分野の十分な知識ならびに十分な研究能力を有していることが確認できたので最終試験を合格とする。